

2014 年度
卒業論文・卒業制作集

2015 年 3 月

慶應義塾大学法学部政治学科

塩原良和研究会

指導教員より

塩原ゼミは、ワークショップや学外でのフィールドワーク／実践活動を重視する、慶應の法学部政治学科では珍しいスタイルを貫いています。アカデミックな卒業論文を書くことだけが、このゼミでみなさんに学んでほしいことではありません。他のゼミではよくある、「三田論」も書きません。にもかかわらず、この論文集に収録されている2014年度卒業の6期生（留学のため在学延長した5期生1名を含む）17名の卒業論文は、いずれも力作ぞろいです。これだけいろいろなことをする忙しいゼミで、ゼミ以外の活動とも両立させながらしっかりと卒論を書き終えたことが、みなさんの今後の人生にとって有意義な経験になることを祈っています。

6期のゼミの2年間の活動には、いつも誰かによる何かの「ストーリー」があったように思います。ゼミの活動、あるいはそれ以外の場で起こったさまざまな出来事に真剣に向き合っていくなかで、それぞれの思いがぶつかりあい、人生が交錯する、そんな瞬間になんども立ち会った気がします。真剣に取り組んでいるがゆえにぶつかりあい、すれ違うことも当初はあったかもしれません。しかし、時が経つにつれてお互いに承認しあい、それぞれがゼミのなかに居場所を見つけ、やがて良好な関係を築いてくれました。途中で留学した人が多かったのも6期の特色でしたが、戻ってきたみなさんも留学先での経験を経て成長した姿を見せてくれました。

就職活動の際、面接でゼミでの活動内容について尋ねられたのにうまく説明できなかつたと、何人かの6期生が話してくれたのを覚えています。たぶんそれはみなさんに説明能力がないからではなく、説明するためにありきたりの言葉にすると何か違うような気がして戸惑った、そんな経験だったのではないのでしょうか。自分にとって関わりや思い入れが強いことほど、簡単に言葉にできないものです。知識や経験が増えていくにつれて、これまで言葉にできていたものが急に言葉にならなくなる。それは、生みの苦しみなのです。がんばってなんとか再び言葉にしようともがいて、それができたとき、以前に比べれば多少は中身のある言葉を手にする、その繰り返しだと思います。

卒論を書き終えたみなさんは、以前よりだいぶ勉強して知識も増えました。けれども、以前より「わかった」かと言われれば、研究を進めていけばいくほど問題の複雑さが分かってきて、かえってわからなくなったという人もいるかもしれません。それこそが、みなさんの進歩の証なのだと思います。「わからなさ」から目を背けずに考え続け、言葉を探し続ける姿勢を、これからも忘れないでください。

2年間本当にありがとう。どうかお元気で、さようなら。

2015年3月
慶應義塾大学法学部教授
塩原良和

2014 年度卒業論文・卒業制作一覧

日本における子どもの居場所保障の在り方

福澤 美奈

Designing Japanese ‘multi-cultural symbiosis’ from the comparison with Canadian Society: The role of education and immigrants’ sense of belonging

佐野 令奈

ひとり親世帯の社会的包摂を導く社会保障の在り方について

佐川 菜津美

ウェブ時代のミドルマンに求められていること

小川 未来

日本における国際児のアイデンティティ

杉山香央利

テレビドラマから見る男性同性愛者の描かれ方 —社会学・メディア研究から見る同性愛—

巴 健太郎

高齢期の社会参加支援政策に関する考察

松永 博之

多文化共生社会に向けた言語政策の方向性 —日本人住民と外国人住民の対等な関係をめざして—

幸田 杏子

外国人住民支援ボランティアを通じた学生の意識変化

西村 英恵

外国人労働者に選ばれる社会をつくるために

佐藤 公耶

The applied discourse of Leisure Science Studies: a theoretical suggestion regarding social participations of minority groups in contemporary Japan

林 真希 Chelsey

「外国人技能実習制度」からみる外国人受入れ
木藤 真夕

Young Adult Third Culture Kid Identity: How a mobile upbringing can influence
identity, personality, and future prospects
福井 麻矢

Immigration Policy in the United States of America: Witnessing white
supremacy/racism and irrationality of the American legal history
金 修京

日本社会における対話の可能性 —演劇からみる文化芸術の社会再生力—
水野上 萌

外国につながる子どもを支える、学校と地域の連携に向けて —横浜市鶴見区と泉区の事例
から—
渡辺 実緒

Community Interpreting in Australia: Language rights and language resources
伊吹 唯

(学籍番号順)